

2018年2月
1136号

百葉

Manyoh

一冊の会 編集部

〒160-0015 東京都新宿区大京町5
(一冊の会研究室)

世界から日本を視る

～歴史を築く人財を～

平昌オリンピックでフィギュアスケート羽生選手が見事金メダルに輝き若手の大活躍に日本中が沸いた日から一夜明けた2月18日、日本晴れの素晴らしい空の下、新メンバー斎藤功さんを迎え櫻華塾を開催いたしました。伊勢桃代先生の講演をあと1カ月で迎える一冊の会では、みな心ひとつにしております。伊勢先生は慶応大学を卒業後世界で女性として活躍出来るステージを求めて渡米。シラキュース大学とコロンビア大学で学び修士号を取得。1985年には国連本部研修部部長を務め、1988-1989年国連大学事務局長として活躍されました。常に世界から国、民衆を視ていた伊勢先生を一冊の会の最高顧問としてお迎え出来ることは大変名誉であり喜ばしいことです。箱根常任参事から決起の号令がありました。

48年間一冊の会で大槻会長と手を携えあって活動を持続されている大先輩の長岡さんは、国立国会図書館元副館長・全国学校図書協議会会長であり一冊の会永久最高相談役である酒井悌先生から伺ったエピソードを紹介されました。戦後アメリカ統治下に入った沖縄では、日本語の活字に大変飢えていました。酒井先生が沖縄に訪問された際には、機内で読んだ雑誌を置いていく人がいたら、沖縄の乗客は必ず持って降りたそうです。一冊の会は直ぐに日本語で書かれた本を集め沖縄各地へと寄贈。多くの沖縄の方の母国語への想いに寄り添って参りました。長岡さんも感動した本を寄贈されたとのこと。また、長岡さん自身の思い出として、戦前日米の友好の証としてアメリカから寄贈された青い瞳の西洋人形と日本が返礼に寄贈した市松人形について語っていただきました。長岡さんの家の土蔵には市松人形がありました。戦争中にほとんどの西洋人形が敵国人形として焼かれるなどして無くなってしまいましたが、長野県須原小学校分校に西洋人形が残っている事を調べ、大槻会長と確認しに行かれたとの事です。友好を願う気持ちが、二体の人形を再開させてくれたのでしょう。そして何よりも長年活動されている長岡先輩が証人となって歴史が刻まれていることに気づきました—深謝—。(2体の人形が並んだ写真は40周年記念足跡集の16ページに掲載)

人生100年時代へ 介護、医療、福祉のあり方、今私たちに出来ること

大槻会長は「これからの時代は介護が大切」と常々語ります。この言葉の意味を一冊の会で9年間勉強し1月に研究員に任命された赤田さんが発表しました。まず一冊の会の最初の活動である浴風会へのオムツの寄贈活動を振り返った後、保健師として働いている立場から、人生100年と言われる位に高齢化した社会の課題と地域包括ケアシステムという概念の説明がありました。私たち1人1人が望むような生き方と死に方を考え実行する事が大切であり「見てみよう！聞いてみよう！語り合おうよ、友好の輪」をスローガンに53年草の根活動を続けている一冊の会だからこそ、1人1人の意識に働きかけることができると語られ、大槻会長がおっしゃる意味は大変広くそして深いのだということが分かりました。一同、1人1人が理解し、考え、行動していく大切さを強く感じました。

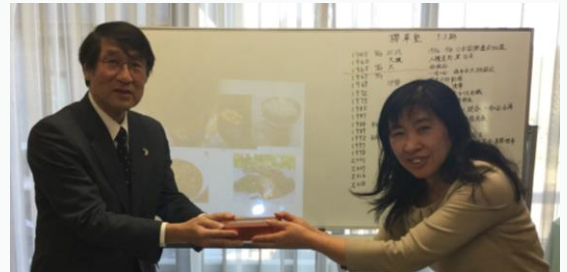
FAWA フィリピン・マニラ総会 2018年9月26日から9月29日

三坂FAWA事務局長よりフィリピンでの総会の日程の詳細案内がありました。ホテルやフライトのスケジュールが固まってきました。さあ、今年のFAWAはもうすぐです！是非皆さま一緒に名誉ある国際会議に参加しましょう！

天空の王国、レト王国へようこそ！

藤江レト王国大使館通商投資促進担当官より、アフリカ大陸の天空の王国レト王国について映像を交え詳しく丁寧に紹介して頂きました。2008年5月モシシリ首相来日の折、一冊の会永久最高顧問である故相馬雪香先生・故園田天光先生と共に日本レト王国友好協会は設立され、その意志を大槻会長が二代目会長として引き継いでおります。2016年にレト王国国王陛下王妃陛下が初来日された際、歓迎晩餐会や東北被災地視察訪問を日本レト友好協会、アフリカ開発協会と共に開催致しました。国王王妃両陛下に大変お喜び頂き、昨年はナショナルデーのレセプションを開催するなどレト王国大使館と良好な関係を築いているのも、いつも多岐に渡りご調整ご手配頂いております藤江担当官の尽力のお陰です。

藤江担当官より、レト王国の歴史や他国との関係を学び、誇り高きバント族が統治するレト王国の治安の良さや7年制の小学校の授業料は無料である為子供の識字率が9割もあるということ、小学校の授業は英語で行われる為母国語のソト語はもちろん子供も英語を話すと同い、これからのグローバルな世の中に通ずる人材育成が行われていることに感銘を受けました。しかし中学校からは授業料が発生し、進学が出来ない子どもが沢山いるとのこと。多くの子どもが未来を担う人材となれるように、今後もレト王国への教育支援活動を続けて参ります。農業の他、産業も発達してきており、特に日本にも輸出しているサーモントラウトの養殖やダイヤモンド、バントブランケット、バントハットで有名なアパレル産業、製紙業により国内の雇用を生み出し、国に潤いを与えています。観光業もヨーロッパからの旅行客が多く、雄大な景色を楽しんだり、動物を鑑賞したり、スキーをする等大変人気があります。残念ながら日本からは直行便が無く最低2回は乗り換えが発生してしまう為、旅行客が少ないとのこと。「百聞は一見にしかず」近い未来是非天空の王国レト王国に藤江担当官と共に一同で訪れることが出来たら本当に嬉しいことです。是非共に参りましょう！



藤江担当官に平間研究員から御礼を手渡し

建国記念日に新聞に掲載された、尾崎罌堂先生の言葉

2月11日の読売新聞に尾崎罌堂先生の記事が掲載されていたことを藤澤さんが紹介しました。失意のどん底にいた満74歳の時、人生の本舞台は常に将来にありと述べました。

しかし、記事にはない「なぜそのことを思いついたのか」ということが大切だと石田理事長。世のため人のためと思ってきた尾崎だからこそ宿った言葉であると。常に国を想い、民衆を想い、日本、世界の未来を想った尾崎先生。現在の状況に満足せず常に将来を見据え目標を定め果敢に挑み続けることが大切です。知識や経験は年を重ねるたびに増えていくもの、増え続ける知識・経験を未来に活かし続け、日々新たな一歩を確実に歩むのです。まさに尾崎先生の生き様は相馬雪香先生、一冊の会の顧問の先生方、大槻会長に同様に反映されます。常にリーダーシップをとり、国の為、民衆の為、未来の為に飽くなき挑戦をしています。3月17日に講演を下される伊勢桃代先生も、長年、世界の為に未来の為に国際人権問題に取り組み、グローバルな人材をと国連大学を日本に誘致されました。国を想い世界を想い、未来を築いていく一冊の会と伊勢先生との関係には長い歴史があり、この度先生を最高顧問にお迎えできたこともご縁あつてのこと。そして新たな歴史が始まるのです。日本、世界を強く想い53年間一貫した精神の基、持続した活動を行ってきた一冊の会のメンバーとして、この53年の歴史で学んだ知識、得た多くの経験を未来に活かしながら「今何が出来るか」を考えないといけないという石田理事長の言葉に自らの使命を再認識致しました。



一冊の会の53年の歴史を一人ひとりが誇りを持ち、3月17日心一つに伊勢桃代最高顧問を迎えましょう！

文責：城杉研究員、平間研究員 編集：赤田研究員

※掲載記事、写真等の無断転載及び複写を禁止します。Copyright(C)2018 Issatsu no Kai. All Rights Reserved.